

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康 食品の安全 (ISBN:978-4-524-26847-4)	共著	2013年4月	南江堂 全243頁	管理栄養士国家試験出題基準に準拠し、出題基準の大項目である「食品の安全性」に従って記載した教科書である。 担当：「第4章 E節 化学性食中毒」 (分担執筆：石橋弘志, 高本亜希子) pp.91-93、「第6章 D節 食品成分の変化により生じる有害物質」および「第6章 E節 混入異物」(分担執筆：石橋弘志, 高本亜希子) pp.146-153 編者：有菌幸司、著者：有菌幸司、河村葉子、臼井宗一、梅垣敬三、松崎弘美、角野猛、村上りつ子、林一也、山田加奈子、小西良子、福島聡、小野要、石橋弘志、高本亜希子、清水利明、米田民雄、川添禎浩、伊藤貴美子、岸本満、山元涼子、瀧口益史、三宅司郎、穠山浩
2. 健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康 食品の安全 改訂第二版 (ISBN:978-4-524-24532-1)	共著	2018年12月	南江堂 全298頁	著書1の教科書の改訂版である。 担当：「第4章 G節 化学性食中毒」 (分担執筆：石橋弘志, 高本亜希子) pp.110-112、「第6章 D節 食品成分の変化により生じる有害物質」、「第6章 E節 混入異物」および、「コラム 加工肉の発がん性について」(分担執筆：石橋弘志, 高本亜希子) pp.171-179 編者：有菌幸司、著者：有菌幸司、河村葉子、臼井宗一、梅垣敬三、松崎弘美、角野猛、村上りつ子、林一也、山田加奈子、小西良子、福島聡、小野要、石橋弘志、高本亜希子、清水利明、米田民雄、川添禎浩、伊藤貴美子、岸本満、山元涼子、瀧口益史、三宅司郎、穠山浩
(学術論文(欧文)) 1. Concentration of neonicotinoid insecticides and their metabolites in Japanese bottled green-tea beverages and their safety evaluation (査読付き)	共著	2019年4月	Japanese Journal of Food Chemistry and Safety Vol. 26(1) 17-27(2019)	ペットボトル緑茶飲料中のネオニコチノイド系農薬および代謝物の実態調査および食品としての安全性評価を目的とし、LC-ESI/MS/MSを用いて定性・定量を行った。 担当部分：実験、データ解析、論文執筆等 著者：Akiko Takamoto, Yoshinori Ikenaka, Mayu Sugimoto, Manami Iwano, Satoshi Fukushima, Takahiro Ichise, Shouta M.M.Nakayama, Keisuke Kato, Keisuke Takahashi, Hiroshi Ishibashi, Mayumi Ishizuka, Koji Arizono

(学術論文(和文))				
1. 食品中化学物質の実態調査および安全性評価	単著	2017年3月	熊本県立大学大学院	「日本産米および外国産米中の重金属含量」および「茶飲料中のネオニコチノイド系農薬 (NNs) および代謝物含量」の存在実態を明らかにし、健康影響評価を行った。(修士論文)
2. 日本、ベトナムおよびインドネシア産米中のカドミウムおよびヒ素の含有量と健康リスク評価(査読付き)	共著	2020年10月	食品衛生学雑誌 第61巻5号 pp.192-199	日本、ベトナムおよびインドネシア産の精白米を対象として、誘導結合プラズマ質量分析計(ICP-MS)を用いてカドミウム(Cd)およびヒ素(As)濃度の測定を行い、ヒトに対する健康リスク評価を試みた。 担当部分: 実験、データ解析、論文執筆等 著者: 高本亜希子, 石橋弘志, 福島聡, 友寄博子, 有菌幸司
3. アラゲキクラゲ抽出画分が食事糖質の消化と吸収に及ぼす影響(査読付き)	共著	2021年8月	日本食品保蔵科学会 第47号4巻 pp.173-178	熊本県産アラゲキクラゲ(<i>Auricularia polytricha</i>)乾燥粉末由来水溶性食物繊維(A-SDF)の食事糖質の消化・吸収への影響を明らかにするために糖質消化酵素への影響、実験動物での糖負荷試験、消費者庁えん下困難者用食品許可基準に基づいたテクスチャー測定を行った。 [共同研究につき担当部分抽出不可能] 著者: 友寄博子, 笠井晴香, 井上奈美, 田中杏奈, 安藤栄里, 上村幸子, 高本亜希子
4. 健康茶素材抽出成分がマルターゼ活性に及ぼす影響(査読付き)	共著	2022年4月	日本未病学会雑誌 第28号1巻 pp.1-5	マルターゼ活性の簡易測定方法を検討するとともに茶素材活性に与える影響を検討し、各種茶素材間での比較を目的として実験を行った。 [共同研究につき担当部分抽出不可能] 著者: 友寄博子, 安藤栄里, 高本亜希子
5. アラゲキクラゲ水溶性食物繊維画分がラットにおける食事グルコース吸収に及ぼす影響(査読付き)	共著	2022年9月	日本未病学会雑誌 第28号3巻 pp.29-35	アラゲキクラゲの水溶性食物繊維(A-SDF)に着目し、グルコース負荷試験ならびにin situ小腸灌流実験を行い、A-SDFの食事グルコースへの影響を検討した。 [共同研究につき担当部分抽出不可能] 著者: 友寄博子, 田中安奈, 上村幸子, 赤星優紀, 高本亜希子
(紀要論文)				
1.				
2.				
(辞書・翻訳書等)				
1.				
2.				

<p>(報告書・会報等)</p> <p>1. ペットボトル茶飲料中農薬の分析および食品安全性評価</p>	共著	2017年3月	<p>ENDOCRINE DISRUPTER NEWS LETTER 環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第19 巻4号p.6</p>	<p>ペットボトル緑茶飲料を対象として、ネオニコチノイド系農薬および一部の代謝物について存在実態を調査し、食品としての安全性評価を試みた。 著者：高本亜希子，福島聡，有菌幸司</p>
<p>(国際学会発表)</p> <p>1. 2.</p>				
<p>(国内学会発表)</p> <p>1. ペットボトル飲料中農薬の分析と安全性評価</p>	共同	2016年12月	<p>環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第19回 研究発表会 (つくば市)</p>	<p>ペットボトル飲料を対象として、ネオニコチノイド系農薬および一部の代謝物含量について調査し、食品としての安全性評価を行った。 共同演者：高本亜希子，池中良徳，吉本圭佑，福島聡，石塚真由美，石橋康弘，有菌幸司</p>
<p>2. <i>In silico</i> 試験系を用いたパラオキシ安息香酸エチルのエストロゲン作用の評価</p>	共同	2017年12月	<p>環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第20回 研究発表会 (神戸市)</p>	<p>パラオキシ安息香酸エステル類のエストロゲン作用に着目し、<i>In silico</i> 評価系によりパラオキシ安息香酸エチルとヒトエストロゲン受容体 (ER) との分子間相互作用を解析した。 共同演者：広田菜々，平野将司，石橋弘志，山元涼子，高本亜希子，有菌幸司</p>
<p>3. アラゲキクラゲの水溶性食物繊維が糖質の消化・吸収に及ぼす影響</p>	共同	2019年8月	<p>日本食品科学工学会 第66回大会 (北海道)</p>	<p>アラゲキクラゲ (<i>Auricularia polytricha</i>) の水溶性食物繊維に着目し、糖質の消化・吸収に及ぼす影響について検討した。 共同演者：上村幸子，笠井晴香，田中杏奈，高本亜希子，友寄博子</p>
<p>4. 健康茶素材抽出物の糖質消化酵素への影響</p>	共同	2019年11月	<p>第26回 日本未病システム学会学術総会 (名古屋)</p>	<p>複数の茶素材の血糖値上昇抑制作用について糖質消化酵素活性阻害を指標として検討した。 共同演者：友寄博子，安藤栄里，高本亜希子</p>
<p>5. 熊本県産干しいたけのγ-アミノ酪酸および遊離アミノ酸の最適抽出条件の検討</p>	共同	2022年8月	<p>日本食品科学工学会 第69回大会 (オンライン開催)</p>	<p>熊本県産の干しいたけ粉末試料を対象とし、抽出方法の違いにおけるγ-アミノ酪酸 (GABA) 量およびその前駆体であるグルタミン酸含量への影響を解析した。 共同演者：高本亜希子，田中利奈，白土英樹，友寄博子</p>

6. 熊本県産干しいたけ粉末の γ -アミノ酪酸最適抽出条件の検討	共同	2022年12月	第20回 日本機能性食品医学会総会 (京都市)	熊本県産干しいたけからの出し汁を様々な条件下で抽出し、遊離アミノ酸分析を行うことで、調理や加工の際の γ -アミノ酪酸 (GABA) の効率的な抽出方法を検討した。 共同演者：友寄博子, <u>高本亜希子</u> , 田中利奈
(演奏会・展覧会等)				
1.				
(招待講演・基調講演)				
1.				
(受賞(学術賞等))				
1. Concentration of neonicotinoid insecticides and their metabolites in Japanese bottled green-tea beverages and their safety evaluation (査読付き)	共著	2020年5月	第4回日本食品化学学会 島津製作所論文賞	ペットボトル緑茶飲料中のネオニコチノイド系農薬 (NNs) および代謝物の実態調査および食品としての安全性評価を目的とし、LC-ESI/MS/MS を用いて定性・定量を行った。 著者：Akiko Takamoto, Yoshinori Ikenaka, Mayu Sugimoto, Manami Iwano, Satoshi Fukushima, Takahiro Ichise, Shouta M.M.Nakayama, Keisuke Kato, Keisuke Takahashi, Hiroshi Ishibashi, Mayumi Ishizuka, Koji Arizono
2. ペットボトル飲料中農薬の分析と安全性評価	共同	2016年12月	環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会) 第19回研究発表会 (つくば市)	ペットボトル飲料を対象として、ネオニコチノイド系農薬 (NNs) および一部の代謝物含量について調査し、食品としての安全性評価を行った。 共同演者：高本亜希子, 池中良徳, 吉本圭佑, 福島聡, 石塚真由美, 石橋康弘, 有菌幸司

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択)						
1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く))						
1.						
(共同研究・受託研究受入れ)						
1.						
2.						

(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.						
(学内課題研究(各個研究)) 1.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.						